



名古屋市立大学大学院経済学研究科博士前期課程



経

営

者

コース

本コースでは企業経営に携わられてきた方々を対象とし、経営者としてのみなさんの「経験」、すなわち経営者に至る道のり、経営者としての実績、それを支えてきたご自身の能力、経営哲学、人的ネットワークなどを振り返っていただき、ケース・自伝として「記述」します。

この「**経営者としての経験の記述**」により、修士号を取得することができます。みなさんの経営談を口承に留めてしまわずに学術的な裏付けのある知財に変えてみませんか？

ごあいさつ

名古屋市立大学経済学研究科は、1989年度にわが国で初めて夜間社会人大学院を開設しました。それ以来、社会人に広く門戸を開いています。これまでに多くの向学心に燃えた方、自分の仕事を学問的に意味づけたい方、キャリアアップを目指す方などが入学され、より専門的な知見を深めてこられました。

本研究科はさらに社会に貢献すべく、2020年度から経営者（経験者を含む）を対象としたこの経営者コースを開設しました。本コースでは、ご自身の経営理念・経験をまとめ、体系化することを目的としています。これまで歩まれて来た道のりが、学術的にどのように意味付けられるのかを、本研究科の専門のスタッフの指導の下に、ケースや自伝として執筆していただきます。大学院修了後は、本コースでの成果を生かしていただき、次世代の経営者を育成されることを願っております。

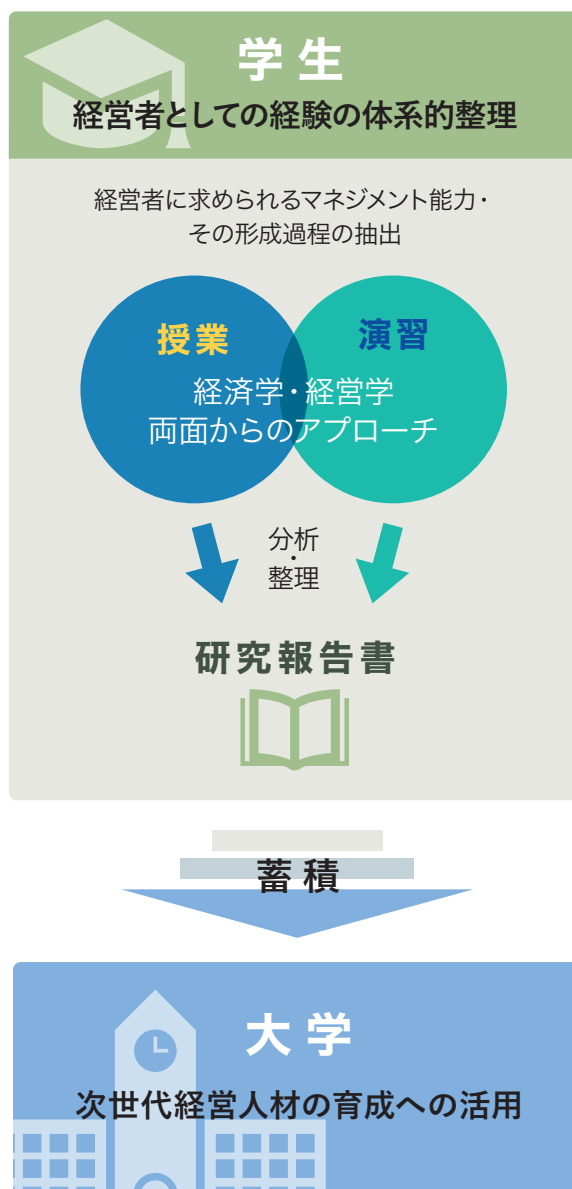


経済学研究科長
中山 徳良



経営者コースの概要

学生は授業・講義の中で経営者としての経験を、経済学・経営学的分析の上で体系的に整理し研究報告書としてまとめ上げます。それを蓄積したものを、大学として次世代経営人材の育成に役立てていきます。



授業科目

組織のマネジメントに関する高度な専門知識と経営人材に求められる教養を幅広く習得することを目的に、右記2つの科目群でカリキュラムを構築します。

経営系科目

組織や戦略に関わる理論的、実践的な問題を主たる研究対象とします。

制度・歴史系科目

マネジメントの根底にある制度や歴史を主たる研究対象とします。

演習科目

広い知見の習得と深さと多面性を備えた研究を、同時にかつ体系的に行いうよう構成しています。両演習とも、複数の教員による指導と学生間のディスカッションを通じて、できるだけ多くの経営者や次世代経営人材に注目されるマテリアル開発を促進する指導体制を取っています。

演習

先行研究のサーベイ、フィールド・ワークや質問票調査などの方法を通じて、学生自身が各々の研究課題をより深く追求できるように研究指導を行います。

特別演習

研究成果の報告およびディスカッションを通じて、経営者としての経験の記述に関して多面的な見方を追求できるようにします。

研究報告書（「リサーチ・ペーパー」）

特定の課題についての研究報告書1編を提出し、その審査および最終試験に合格することで学位を授与します。

担当教員



鵜飼 宏成

専門分野: アントレプレナーシップ論、アントレプレナーシップ教育

〈学歴〉

法政大学大学院社会科学部研究科博士後期課程中退

〈主な業績〉

「技術の進展による働き方の変化」共著、『アーバン・アドバンス』（第70号）2018年9月／『はじめて出会う経営学』共著、中央経済社 2016年3月／「アントレプレナーシップ教育における支援者機能の一考察」単著、『経営管理研究所紀要』（第17号）11-21 2010年12月

キーワード アントレプレナーシップ、ベンチャー、インキュベーション

大神 正道

専門分野: 技術マネジメント

〈学歴〉

東京大学大学院経済学研究科博士課程単位修得退学

〈主な業績〉

「技術進化とコミュニティの文化変容モデル」（共著）『経済学論集』（東京大学）75(3)、61-78、2009／「支配的技術の進化とコミュニティの影響 一板ガラス成形技術の変遷一」（名古屋市立大学経済学会 ディスカッション・ペーパー No.591、2014）／Factors influencing the S-curve: Analyzing the Float process technology of the Glass industry. Annals of Business Administrative Science、15(4)、187-197.doi:10.7880/abas.0160430b、2016

キーワード イノベーション、技術進化、技術認識

河合 篤男

専門分野: 経営戦略

〈学歴〉

神戸大学大学院経営学研究科博士後期課程修了 博士（経営学）

〈主な業績〉

『100年成長企業のマネジメント 3Mに学ぶ戦略駆動力の経営』（共著）、日本経済新聞出版社、2017年／『切磋琢磨 慶應義塾・加藤寛ゼミに学ぶ人材育成』生産性出版、2007年／『企業革新のマネジメント 破壊的決定は強い企業文化を変えられるか』中央経済社、2006年

キーワード 経営組織、組織変革、人材育成とネットワーク

木谷 名都子

専門分野: 外国経済史

〈学歴〉

大阪外国語大学大学院言語社会研究科博士後期課程修了 博士（学術）

〈主な業績〉

「1930年代の国際経済秩序をめぐる研究動向ーイギリス帝国特惠関税体制（オタワ体制）の意義をめぐってー」『オイコノミカ』第52巻第3号、2016年、81-88頁／「植民地支配下のインドにおける資本家の動向ー1930年代を中心にー」井上泰夫編著『日本とアジアの経済成長』見洋書房、2015年、86-105頁／「インド棉花輸出問題から観た英印民間会商と第一次日印会商ー1930年代前半の対英特惠関税問題再考ー」『社会経済史学』第71巻第6号、2006年、25-47頁

キーワード イギリス帝国、英領インド、特惠関税

下野 由貴

専門分野: 国際経営、組織間関係

〈学歴〉

神戸大学大学院経営学研究科博士後期課程修了 博士（経営学）

〈主な業績〉

『サプライチェーンのシェアリングモデル: トヨタグループにおける付加価値の創造と分配』、中央経済社、2020年／"Automobile Industry Supply Chain in Thailand" (共著)、Springer Singapore、2018／『スウェーデン流グローバル成長戦略』（共著）、中央経済社、2015年

キーワード グローバルサプライチェーン、企業間取引、自動車産業

竹内 真登

専門分野: マーケティングリサーチ

〈学歴〉

名古屋大学大学院経済学研究科博士後期課程修了 博士（経済学）

〈主な業績〉

「文脈効果を考慮したコンジョイント分析による購買予測」（共著）『流通研究』24(2)、17-32、2022年／「プロセスシミュレーションを伴うコンジョイント測定による購買予測ー写真提示を用いた操作と追跡調査による予測精度向上の確認ー」（共著）『行動計量学』44(1)、45-56、2017年／「マインドセット操作によるマーケティングリサーチの精度向上は可能か？ーメンタルシミュレーションと解釈レベル理論に基づく操作の違いに着目してー」『行動計量学』44(2)、151-165、2017年

キーワード 調査方法論、回答スタイル、不適切回答

出口 将人

専門分野: 経営戦略論、経営組織論

〈学歴〉

神戸大学大学院経営学研究科博士後期課程修了 博士（経営学）

〈主な業績〉

『組織文化のマネジメント』白桃書房、2004年／「1からの経営学第2版」（分担執筆）碩学舎、2006年／「地域の産業集積の多様性とその決定要因」『組織科学』47(4) 41-53、2017年

キーワード 組織文化、制度、事業システム、産業集積

藤田 菜々子

専門分野: 経済学史、制度経済学

〈学歴〉

名古屋大学大学院経済学研究科博士後期課程修了 博士（経済学）

〈主な業績〉

『ミューダールの経済学ー福祉国家から福祉世界へ』NTT出版、2010年／『福祉世界ー福祉国家は越えられるか』中央公論新社、2017年／社会をつくった経済学者たちースウェーデン・モデルの構想から展開へ』名古屋大学出版会、2022年

キーワード 福祉国家、スウェーデン、資本主義の多様性

平野 大昌

専門分野: 労働経済学、応用計量経済学

〈学歴〉

大阪府立大学大学院経済学研究科博士後期課程修了 博士（経済学）

〈主な業績〉

「自己啓発と女性の就業」『季刊家計経済研究』家計経済研究所、第76号、pp.79-89、2007年10月／「失われた10年と日本企業の雇用調整行動ー企業の規律付けメカニズムは変化したのかー」（共著）、『経済分析』内閣府経済社会総合研究所、第183号、pp.25-58、2010年3月／「大学生の内定獲得とインターンシップ経験のシグナリング効果」『生活経済学研究』生活経済学会、第41号、pp.31-44、2015年3月

キーワード 雇用、人的資本、生産性

山口 明日香

専門分野: 日本経済史

〈学歴〉

慶應義塾大学大学院経済学研究科博士課程修了 博士（経済学）

〈主な業績〉

『森林資源の環境経済史』慶應義塾大学出版会、2015年／「戦前日本の漁業発展と水産資源: トロール・機船底曳網漁業を中心に」『日本史研究』(703)、128-159、2021年3月／「近代日本の産業化による山林負荷の再検討」『社会経済史学』87(3)、3-27、2021年11月

キーワード 産業化、環境、自然資源

山本 奈央

専門分野: マーケティング、消費者行動

〈学歴〉

神戸大学大学院経営学研究科博士後期課程修了 博士（商学）

〈主な業績〉

「オンラインコミュニケーションとブランドロイヤリティに関する探索的研究」、日本情報経営学会誌、第30号、No. 4 pp.58-68、2010年／「企業ウェブサイトのマーケティング利用における戦略目的と成果の関係についての探索的研究」（共著）、日本マーケティング学会 ワーキングペーパー、vol.2、no.8、pp.1-23、2016年／「ソーシャルメディア時代のブランドによる自己表現」、繊維製品消費科学、59巻11号 pp.856-861、2018年

キーワード ブランド、消費者間相互作用